

本調査研究はモーターボート競走公益資金  
による財団法人日本船舶振興会の補助金を受けて  
実施したものです。

# 九州西部経済圏における海上輸送を中心とした 運輸交通網の整備のあり方に関する調査研究

## — 報 告 書 —

平成2年3月

財団法人 九州海運振興センター

## は し が き

本報告書は、当センターが財団法人日本船舶振興会の昭和63年度から2カ年にわたる補助事業として実施した「九州西部経済圏における海上輸送を中心とした運輸交通網の整備のあり方に関する調査研究」の研究成果をとりまとめたものであります。

九州西部でも有数の大型港湾である熊本港は開港をめざして着々と工事が進められており、供用を開始したあかつきには、熊本県を中心とする長崎県を含む九州西部の旅客・貨物輸送に大きな影響を与えることが予測され、海上輸送を中心とした運輸交通網の整備のあり方を検討することが緊急の課題となっています。

本調査研究は、このような状況の中で昭和63年度から2カ年にわたり調査研究に取り組み、初年度は熊本港の供用開始に伴う海上輸送形態の変化、関係地域の観光の動向、熊本港背後圏等の旅客・自動車輸送を中心とした海上輸送体系整備にかかる今後の展望と課題を明らかにしたが、本年度はさらに、熊本港を基点とした貨物輸送の可能性を検討し、昨年度の調査結果と併せ九州西部経済圏における海上輸送を中心とした運輸交通網の条件整備と課題を明らかにしたものであり、この報告書が関係者の方々にいささかなりともご参考になれば幸いに存じます。

おわりになりましたが、本調査研究をとりまとめるにあたって終始ご指導、ご協力をいただきました熊本商科大学高瀬教授をはじめ委員各位、関係官公庁並びに調査にご協力いただいた関係の方々に、改めてお礼を申し上げます。

平成2年3月

財団法人 九州海運振興センター  
会 長 邑 本 義 一

『九州西部経済圏における海上輸送を中心とした運輸交通網の  
整備のあり方に関する調査研究』

委 員 名 簿

(順不同 敬称略)

委員長	高瀬泰之	熊本商科大学教授・経済学部長
委員	藤田武彦	第四港湾建設局企画課長
〃	飯原一樹 (五味廣文)	熊本県企画開発部長
〃	小野満司	熊本県土木部長
〃	川下拓三	長崎県企画部長
〃	松尾勝	九州旅客船協会連合会専務理事
〃	江崎健二郎	熊本旅客船協会会長
〃	村木文郎	長崎旅客船協会会長
〃	赤峰幸夫	(社)熊本県トラック協会専務理事
〃	福本秀爾	九州運輸局企画部長
幹事	森地利幸	九州運輸局熊本陸運支局長
〃	松尾和治 (折田義治)	九州運輸局三角海運支局長
〃	山内啓司	九州運輸局自動車部貨物第一課長
〃	山口迪	九州運輸局運航部輸送課長
〃	花田陽祐	九州運輸局企画部貨物流通企画課長
事務局	河野芳人 (清水照久)	九州運輸局運航部輸送課補佐官
〃	船本真二	九州運輸局企画部貨物流通企画課補佐官
〃	橋口雅宣	九州運輸局企画部貨物流通企画課 流通企画第二係長
〃	弘中吉昭	(財)九州海運振興センター調査役
集計解析	齊藤実	(株)日通総合研究所経営研究部 経営システム研究室研究員
〃	男澤智治	(株)日通総合研究所経営研究部 都市交通研究室研究員

\* ( ) は上記委員等の前任者

# 目次

序章 調査の概要	
第1節 調査の目的	1
第2節 調査の体系	1
第1章 九州西部経済圏の経済動向	
第1節 熊本県における経済・観光の動向	5
第2節 長崎県における経済・観光の動向	24
第2章 熊本港の概要	
第1節 港湾整備をめぐる動き	41
第2節 熊本港のアクセス整備	48
第3章 旅客輸送における熊本港の可能性	
第1節 九州西部経済圏のフェリー輸送需要の動向	51
第2節 熊本港にかかわる海上旅客輸送の将来推計	72
第4章 貨物輸送における熊本港の可能性	
第1節 調査の目的と方法	93
第2節 郵送調査結果	94
第3節 郵送調査からみた熊本港の利用見通し	112
第4節 面接調査からみた熊本港の利用見通し	125
終章 調査研究の結論	127
参考資料	
1. 調査票	135
2. 面接調査結果	151
3. 素集計結果	163

詳細は当センターへお問合せ下さい

**(財)九州運輸振興センター**

電話 : 092-451-0469

e-mail : [info@kyushu-transport.or.jp](mailto:info@kyushu-transport.or.jp)